

中学生まちづくりスクールミーティング

～ わがまち「こまき」について考えよう！ ～

実施報告書



概要

日時・場所

令和6年8月27日（火）午後2時～午後4時

市役所本庁舎6階 601会議室

参加者

小牧西・岩崎・味岡中学校の生徒の皆さん 22人、市職員 5人

ファシリテーター

特定非営利活動法人 こまき市民活動ネットワーク 代表理事 関 哲雄 氏

主催

小牧市

市長あいさつ

みなさんこんにちは。

今日は、中学生のみなさんに、市役所へお越しいただきました。

中学生まちづくりスクールミーティングは、毎年、いろいろな形で工夫をしながら開催しています。今年も昨年に引き続き、市民活動ネットワークさんに協力をいただいています。

小牧市のまちづくりにおいて、みなさんが日頃感じていることについて、いろいろな意見やアイデアを出して、まちづくりについて考えていただく有意義な時間にしてもらえればと思います。

SDGsについては、みなさんもよく知っていると思いますが、2030年の国際的な目標として、小牧市も国と一緒に目指すためにさまざまな取組を行っています。小牧市のまちづくりの計画の中にも、SDGsとの関連ということで、それぞれのゴールに向けて市民のみなさんや企業のみなさんとともに、取組んでいただけることは何かということをはっきりと示しているところです。

今回は『SDGs こまきカード』を使って、SDGsの概念を自分たちの身近なまちである小牧と結びつけ、いろいろ考えるきっかけにしていいただければと思います。

カードゲームを通じて、SDGsと小牧市のまちづくりについて、理解を深めて「自分たちは何ができるだろう」と考えながら、これからの活動につなげていただければと思います。

今日は楽しみながら、和気あいあいと取り組んでももらえればと思います。



オープニング

令和4年度に行われた小牧市の市民意識調査でSDGsの認知度が、81%と非常に高く、全世代の方がSDGsについて知っていると言っています。

そして、令和5年に全国で行われたSDGsに関する生活調査では、10代の方のSDGsの認知度が91%と一番高くなっています。

9割近くの方がSDGsを知っている中で、今後は、SDGsが示す二つの大事なキーワードが残っていくと思います。

一つ目は、「サステナブル（持続可能）」です。今年開催したパリオリンピックでも「史上最もサステナブルなオリンピック」と謳われていました。パリは、地域や国を大事にしていく姿勢を全世界に発信することが持続可能ではないかということで、施設の95%を既存や仮設で行いました。また、ペットボトルの使用を禁止にするなど、サステナブルに関わるさまざまなことをオリンピックで行っていました。

二つ目は、「Transforming our world（我々の世界を変革する）」です。SDGsの正式な意味は、「我々の世界を変革する持続可能な開発のための2030アジェンダ」です。この「our（我々）」は、宇宙全体、先進国、貧困の国、日本、学校、家族などさまざまな考え方があります。誰に当てはめるのか考えてみてください。

現在は、SDGsの17項目あるうちの何番をやるということではなく、持続可能な活動するためにはどうしたら良いのか、我が事にしていくことが大事であるといわれています。そのため、SDGsの番号を話すのではなく、持続可能なことについて語り合うことでSDGsの取組が生まれてきます。

今日は、「Transforming our world」の「our」を、ぜひ「小牧市」に当てはめて考えてみてください。



今回の『SDGsこまきカード』は、市民、企業、学校関係者、行政が集まって、小牧市の課題や良いところについて話し合い、2023年に作成しました。実際に小牧市で起きていることの数値（オープンデータ）をカードのクイズにしています。

ゲーム説明

- ① カード（34枚）の問題面を上に向けて机の上に並べる。
- ② グループ内で出題者を1名決め、カードの中から1枚をピックアップする。
- ③ そのカードの問題に対して、答え（数字）をグループ全員が付箋に書く。
- ④ 「せーの」の合図で全員が付箋を出す。
- ⑤ その答え（数字）を書いた理由をグループで話し合う。
- ⑥ カードを裏返して答え合わせをする。
- ⑦ 正解を確認して、どのように感じたのか・考えたのかをグループで話し合う。
- ⑧ 出題者を交代して、①～⑦を繰り返す。

☆ゲーム終了後、グループごとに気になったカードを2枚選び、選んだ理由（小牧市の印象の変化、カードにまつわるエピソードなど）を発表する。

ゲームのポイント

- このカードゲームはクイズ大会ではない。（「○」か「×」かで盛り上がるだけではNG）
- 自分が思っていることをみんなで共有し、対話をする。（なぜそう思ったのか、どうして正解に近い数字が分かったのかなど）
- みんなで共有することで、互いに小牧市の良いところを見つけることができ、こまきへの誇りや愛着につながる。

ゲーム中の様子



発表 (A グループ)

(A)グループ

SDGs No.	問題
9	小牧市で1日1回以上タブレットPCを活用しているクラスの割合は 小学校55.5%、中学校=80%

- ・小学校低学年がタブレットを使いこなすのは中学生より難しいと思ったので中学校よりは少なかった。思った通りだった。
- ・中学生になると自身でスマホを持つことも多いしグループワーク等で利用できて便利なのでもっと普及してもいいのでは。
- ・インターネットが今後さらに普及していくと増えると思う。

(A)グループ

SDGs No.	問題
5	小牧市の市議会議員のうち女性議員の割合は24%

- ・思った通り女性は少なく男性の方が多かった。
- ・多様性を実現させるためには議会の議員も多様な人材を取り入れ、たくさんの考えや価値観を持った人がいることでより住みやすい街になると思う。
- ・例えば子育て支援等、小牧市として女性の意見が必要となってくる場もあると思うので今後増えるといいと感じる。

「No. 9」

中学生になると、SNS がもっと普及することになると思うので、もっと PC を中学校で使っても良いのではと思った。

インターネットは、さらに普及していくと思うので、今後は増えると思った。

「No. 5」

多様性を実現させるために、議員も多様な人材を取り入れて、たくさんの考えや価値観を持った人によって、もっと小牧市が住みやすいまちになると思った。

子育て支援などで、小牧市として女性の意見が必要になってくると思うので、今後女性議員も増えると良いのではと考えた。

◎市長コメント

ネット社会が急速に普及して、これからの時代になくはないため、タブレットを導入した。有効活用していただきたいと思うが、ネットには独自性があり、危険な部分もあるので、正しい使い方を身につけて使ってほしい。

発表 (B グループ)

(B)グループ

SDGs No.	問 題
12	小牧市の年間のリサイクル率は36.54%

- ・身近だから、小学校の時にリサイクルについて学習したことがあったからカードを選んだ
- ・全国で第7位はすごい、驚いた
- ・岐阜ではごみを分別しないらしい。分別するのは当たり前だと思っていた

(B)グループ

SDGs No.	問 題
4	小牧市の小学校と中学校の不登校生徒数の合計は554人

- ・周りに学校に行けていない人が多かったからカードを選んだ
- ・そもそも不登校って課題なの？
- ・課題解決といっても不登校の理由はひとそれぞれ
通信教育などで勉強ができていればいいのでは

「No. 12」

全国 7 位であることに驚いた。

ほかの町では、ごみを分別しないところもあって、小牧市は、日常の中で分別が当たり前にあったので、すごいことだなと思った。

「No. 4」

そもそも不登校って何がいけないのかなと思った。行きたくない人は、その人の人生でそれを選び、その人のことであるので、何がいけないのかなと感じた。

通信教育などで勉強ができていれば、別に学校に行く必要はないのではと思った。

◎市長コメント

環境問題は、世界共通の問題であり、みんなで取り組んでいかなければならないので、情報共有し、学び合いながら、もっと全体で良くしていきたいと思っている。不登校について、小. 中学生は社会との関わり合いを学ぶ時期であり、社会と関わった中で、いろいろな道が開けてくると思うので、できるだけ小. 中学校にはみんなが行けるようにしたいと思っている。みんなで声をかけ合って楽しい学校をつくってもらいたい。

発表（Cグループ）

（C）グループ

SDGs No.	問題
12	小牧市の年間のリサイクル率は36.54%

- ・学校でもリサイクルに関する取り組みを多く行っており、数字は少ないように感じた。
- ・全国7位、県内1位は初耳。もっとPRしていけるのではないかな。
- ・日常生活の中で自然と出来ているかもしれないが、多くの人が取り組めるイベントがあるとよいのではないかな。

（C）グループ

SDGs No.	問題
3	小牧市の平均寿命は男81.7年、女87.3年

- ・少子高齢化の中で平均寿命が高いとなると、若者の負担が増えていくことにつながるため、子育て支援をしっかりと。
- ・市民病院までこまくるなどでアクセスできるが、バスにも乗れない人もいると思うので、訪問医療などを充実してほしい。

「No. 12」

学校でもリサイクルに関する取組を多く行っているのので、この数字は少ないと感じた。

日常生活の中で、分別が自然にできているのかもしれないが、多くの人に取り組めるイベントがあっても良いのでは思った。

「No. 3」

少子高齢化で、平均寿命が長くなると、今働いている人たちや自分たちが働くときに、負担が大きくなっていくと思うので、子育て支援が必要になってくるのではと思った。

市民病院までバスを利用することが難しい地域には、医者や看護師を派遣して、訪問医療を行うと良いのではと思った。

◎市長コメント

平均寿命と健康寿命の差が結構あり、小牧市は健康寿命伸ばすための取組を現在、進めている。若者の負担が増えるため、子育て支援をしっかりとすべきという意見は、その通りだと思うので、少子高齢化の中で、今できる子育て支援をやっていこうと思う。

発表 (D グループ)

(D)グループ

SDGs No.	問 題
6	小牧市で、1人が1日に使う水の量は244L

- ・「洗濯」を自分ではしないため気づかなかった。
- ・コロナで手洗いが増えたのではないかな。
- ・年々気温が上がり、飲み水も増えている？

(D)グループ

SDGs No.	問 題
12	小牧市の学校給食の残食率は9.3%

- ・意外と少なくて安心した。たくさん食べてよかった！
- ・これでも意外と多いのかな？
- ・クラスを超えて、余ったご飯をあげるなど、もっと減らせそう。

「No. 6」

コロナ禍で手洗いが増えて、水を使う量が増えたのでは思った。

年々気温が上がり、飲み水が増えているので、昔よりも水の使用量が増えているのではと思った。

「No. 12」

9.3%なので、30 人学級だとしたら 3 人くらいの人が残している計算になり、世界中には食べることができていない人もいると思うので、その 9.3%を減らさなければと思った。

給食は、親にお金を出してもらったり、市がお金を削減して作っていたりするので、自分たちのできることとして、残食をもっと減らせる努力をしなければいけないと思った。

◎市長コメント

世界で水道水が飲める国は 11 ヶ国しかない。アジアでは日本のみであり、水に恵まれている国だと思う。しかし、日本は恵まれた食生活を送るためにほとんどの食料を輸入しており、水も同時に世界から間接的に輸入をしているのが現状である。世界では、綺麗な水を飲めない人、食べ物を食べられない人もいるので、みなさんには、感謝しながら給食を食べてほしいと思う。

発表 (E グループ)

(E)グループ

SDGs No.	問題
11	小牧市は住みよいまちだと思う小牧市民の割合は90%

・基本的には住みやすいけど、治安が悪いところもあったり、交通量が多いところもあって、危険な時もあると思った。

・観光名所が少ない。

(E)グループ

SDGs No.	問題
15	小牧市の緑被面積は43%

・今の緑被面積をどう維持していくか

・工場もある中で緑もあるから割合的にはいい割合

・少ないところは増やしていく必要があるけど、多すぎると災害が起きてしまう可能性もあるから、偏りなく緑があるといいかも。

「No. 11」

自分たちも住みやすいと感じているので、90%という割合なのではと思った。

残りの 10%は何かと考えたときに、少し治安が悪かったり、交通量が多かったり、観光名所が少なかったりするからだと考えたので、そこを改善すれば良いと思った。

「No. 15」

小牧市は、いろいろな工業が盛んであるのに、半分も緑被面積があることはとても良いことだと思った。

一番大切なのは、この数字をどれだけ維持していくかだと思う。小牧市でも中心部で再開発が行われると思うが、そこでどれだけ緑を大切にしていけるかが大事だと思った。

◎市長コメント

小牧市が住みよいまちだと思う市民の割合は、年々右肩上がりになっていることは非常に嬉しく思う。残りの 10%は何かというのは、住んでいる地区や年代などいろいろな立場があつてのことなので、さまざまな意見がある。緑や自然を守っていくという観点では、開発することについて心配の意見もあることを承知している。市としてしっかり緑や自然を守っていけるよう努力していきたい。

まとめ

冒頭に、SDGsの二つの大事なキーワードについて話しました。

「Transforming our world」の「our world」の「our（我々）」を、どこに据え置くのかによって、みなさんの視点が変わってくると思います。

そして、「サステナブル（持続可能）」です。もし、SDGsが2030年以降、別の形に変わったとしても、持続可能というキーワードは残ります。持続可能の取組の捉え方は、現代世代の欲求を満たしつつ、次の世代のことも考えていくということがいわれています。

今日、ゲームを行って、みなさんいろいろな気づきがあったと思いますが、まずは未来のことを考える前に、今のことを知ることが一番大切なことだと思います。

市長講評

みなさんお疲れ様でした。

少しでも、これからのみなさんの成長につながり、思い出にも残る貴重な機会になってくれていたら良いなと思っています。

ゲームを通じて、みなさんがいろいろと気づいていただいた中で、やはり自分たちのまちづくりについて興味、関心を持って、まちのことを知ることがとても大事だと思います。



そして、情報を知る中で、現代はネット社会のため、多くの情報が流れてきます。その中には、誤情報もあり、これを見極めることが非常に大事になるので、自分の頭で考え、慎重に判断していただきたいです。

まちづくりは1人ではできません。みんなで協力をしてやっていくことが大事です。周りのことに関心を持ち、少しでも社会に貢献することを自分自身の中で考えていただければと思います。自分だけでなく、相手のことを少しずつ考えることがまちづくりの基本であり、良い社会につながるとしています。

参加していただいた生徒の皆さん

味岡中学校	吉田 和斗 さん	中嶋 晟亜 さん
	仙田 菜緒 さん	山本 隼輝 さん
	太田 愛里 さん	松井 彩羽 さん
	松浦 悠一郎 さん	
岩崎中学校	奥田 水葵 さん	落合 愛純 さん
	甲斐 一輝 さん	木澤 太一 さん
	佐藤 諒 さん	田村 知丈 さん
	松野 明華 さん	吉田 朱里 さん
小牧西中学校	小関 萌加 さん	平手 慈乃 さん
	加藤 綺依 さん	堀部 雄太 さん
	社本 沙良 さん	小川 嵩大郎 さん
	松川 莉那 さん	